

くらし安全 新しいまちづくりをすすめよう



かけはし

編集・発行／沼津駅の高架化を実現する市民の会 〒410-0046 沼津市米山町6-5 (沼津商工会議所内) TEL <055> 921-1000代・FAX <055> 921-1105

主な記事

- 県市共催 事業説明会の概要(1)
 - ・ 要望活動
 - ・ 平成26年度 会の動き
- 先進地視察見学会を実施しました(2)
 - ・ JR南武線 (稲田堤駅～府中本町駅間) 連続立体交差事業

決定！ 鉄道高架事業の推進！

栗原市長

- 高架事業により沼津のまちの魅力を高める！
- 財政破綻の心配はありません！

難波副知事

明るい未来のために、みんなで「沼津の新たなまちづくり」をスタートしましょう！

平成27年1月29日、プラザヴェルデにて静岡県と沼津市が共同で「これからのまちづくり」活力あるまちづくりを目標として「」を開催し、多くの市民が参加しました。

この説明会では、はじめに、県担当者よりP1 (パブリック・インボルブメント) を含む、これまでの事業経緯が説明されました。

続いて、**栗原裕康沼津市長**が壇上に立ち、

1. 「イーラデ」も黒字となり、沼津のまちは良い方向に回ってきた。さらに、まちの魅力を高めていきたい。
2. 鉄道高架事業を進めて沼津市の財政は大丈夫なのか。夕張市のようになってしまうのではないかと反対される方もいる。努力は必要であるが、財政破綻の心配はありません。
3. 広大な鉄道跡地や高架下に、都市的魅力を増す施設をいかに配置していくか、市民とともに夢を持って進めていきたい。
4. これまで議論を尽くし、最終責任者が判断をした。民主主義のルールに従い、みんなで一緒にやりましょう。

と今後の市の方針について説明がありました。

次に、市担当者より今後10年間の市の財政見通しについて、鉄道高架事業を実施しても、健全な財政運営が可能であると説明がありました。

最後に、**難波喬司副知事**より、

1. まちづくりは、未来への投資であり、投資方法・まちづくりの方法については、様々な選択肢がある。そして今回、「よりよいと思われる案」を選択した。
2. 原地区への新貨物ターミナルの設置については、万全の環境対策とともに新たなまちづくりを行うことにより、地域住民の皆様にも「受忍」ではなく、「受認」いただけるものになり得ると判断した。
3. 沼津駅周辺総合整備事業は完了までに15年以上かかります。しかし、みなで新たなまちづくりをしようという人の心が動けば、まちづくりの効果はすぐ明日から出ます。明るい未来のために、みんなで「沼津の新たなまちづくり」をスタートしましょう。

と呼びかけられました。

当会としては、県や市に協力しながら、新しい沼津のまちづくりをともに進めてまいります。



沼津は移住、定住したいまちになり得ると力説する難波副知事



市長からは、「高架事業における沼津市の財政への心配はない」との説明がありました。

鉄道高架事業をもとに皆の力を合わせて新しい沼津をつくりましょう

県知事・県議会に要望書を提出

事業主体である静岡県より、現行計画どおり事業を推進するとの方針が示されたことを受け、平成27年2月9日、当会は鉄道の高架化を一刻も早く実現していただくため、栗原市長、沼津駅鉄道高架事業推進特別委員会浅原委員長らとともに県庁を訪問しました。

当日、面会した難波副知事、野知交通基盤部長、多家議長に対し、平成18年の事業認可以来、沼津駅周辺では鉄道の高架化を前提としたまちづくりが着々と進んでおり、多くの市民が心待ちにしている鉄道高架本体工事の早期着工を要望しました。

難波副知事からは、「たくさんの方々の思いが込められた要望書をいただき、私も今一度、しっかりと取り組んでいきたい」と大変力強い決意が述べられました。

また、多家議長からも「事業推進に向け、ともに頑張ってください」とのお言葉をいただきました。



栗原市長、浅原委員長とともに、難波副知事へ要望書を手渡す市川会長



更なる事業推進に向け、多家議長に要望書を手渡す

平成二十六年年度会の動き

1. 会議の開催

- (1) 総会・定時会員総会
 - とき 平成二十六年八月四日(月)
 - 会場 沼津商工会議所
 - 議案 平成二十五年度事業報告及び収支決算、平成二十六年事業計画及び収支予算、役員改選について
 - 報告 「岐阜駅の高架化について」視察報告(1)
 - 報告 プラザヴェルデ
- (2) 正副会長会議
 - とき 平成二十六年七月三十日(火)
 - 場所 沼津商工会議所会議室
 - 議題 定時会員総会に諮る議案について
 - 報告 「岐阜駅の高架化について」視察報告(2)

2. 広報啓発活動

- (1) 視察
 - とき 平成二十七年二月二日(月)
 - 場所 東京都稲城市
- (2) 広報紙「かけはし」発行
 - ① 第三十一号(三月三十一日発行) 8万5千部印刷・全戸配布

3. 関係機関への要望

- とき 平成二十七年二月九日(月)
- 場所 沼津駅付近鉄道高架事業の推進について県知事、県議会へ要望した

4. その他

- 静岡県・沼津市共同開催の「これからのまちづくりについて」活力あるまちを目指して」を傍聴
- とき 平成二十七年一月二十九日(木)

(3) 事務局会議

- とき 平成二十六年九月二十二日(月)

先進地視察見学会を実施しました。(JR南武線連続立体交差事業)

▶ 視察レポート

平成27年2月2日(月)、女性も含めた市民の会会員37名で、連続立体交差(鉄道高架)事業の先進地である東京都稲城市を視察いたしました。

東京都稲城市は、東京都心から西南に約25kmに位置し、多摩ニュータウン建設や京王相模原線、小田急多摩線沿線の開発に伴い、多摩川流域の既存住宅地と合わせて人口が急増した人口約86,000人の都市です。

【事業の概要】

稲城市は、沼津市と同様に市街地が鉄道で分断されていた上、踏切による慢性的な交通渋滞が課題となっていたため、鉄道高架事業を実施し、沿線のまちづくりを進めています。この事業は、JR南武線の稲田堤駅～府中本町駅間約4.3kmの区間を連続立体交差化し、15箇所の踏切を除去するもので全体事業費は約598億円です。平成25年12月に全線の高架化が完了しました。

【視察内容】

当日は、沼津駅より大型バスで南多摩駅まで行き、その後JR南武線に乗って『南多摩駅』『稲城長沼駅』『矢野口駅』の3駅周辺を見学しました。各駅周辺では、鉄道の高架化に合わせて土地区画整理事業等を実施し、駅前広場や幹線道路の整備が着々と進んでいました。元々、駅前広場もなく小さな駅舎があるだけだった場所が、高架化によりこんなにも変わるのかと驚いた会員も多かったです。



～(旧)南多摩駅～



～(現)南多摩駅～



～(旧)稲城長沼駅～



～(現)稲城長沼駅～

南武線での移動の際、市担当者より環境(防音)対策として※弾性バラスト軌道やロングレール設置等の説明があり、会員からは実際に乗ってみると『本当に静かで、ハイブリッド車のように』『ホーム下も含めて、振動や騒音がほとんど無い』といった声が聞かれました。

【稲城のまちの人の声】

また、当日は地元商店街やまちの方に話を伺いました。

『高架になって渋滞がなくなり、人や車の流れが大きく変わった』『高架に反対する人はいなかった。高架にしてよかったことしか思い浮かばない』『まちがどんどん便利になっている』『もともと貨物線路で何もなかった所だったが、高架になって人が集まるようになった』その他、まちの発展を楽しみにしているといった声が聞かれました。

※弾性バラスト軌道…鉄筋コンクリート製マクラギの下に弾性材を張り付ける等、吸音と防振効果に優れた線路

▶ 参加した会員の声

- 各駅とも共通して住民の期待が大きくなった(70代男性)
- 3つの駅舎は統一感があり、街全体の一体感を感じた(50代男性)
- 駅前にガンダムのモニュメント設置が計画され、今後、話題になると思う(20代男性)
- 電車の通過音の小ささを実感することができた(60代男性)
- 騒音に対する配慮がなされ、参考になった(70代女性)
- 南北の往来など大変便利で街全体として活性化されている(40代男性)
- 視察をしてみて、沼津でも鉄道高架を進めてもらいたいと思った(50代男性)
- 沼津も高架事業を速やかに進めるべきだと感じた(70代男性)



JR矢野口駅の自由通路や高架下利用の状況を視察する



JR稲城長沼駅の高架工事について説明を受ける

▶ JR南武線(稲田堤駅～府中本町駅間)の高架化による効果

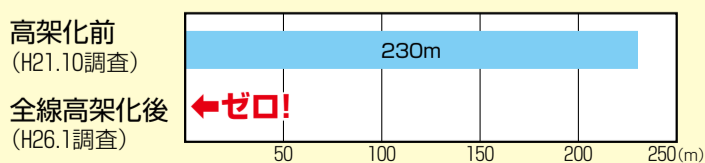
●踏切遮断が解消

第二区間にある7箇所の踏切の平均遮断時間の変化



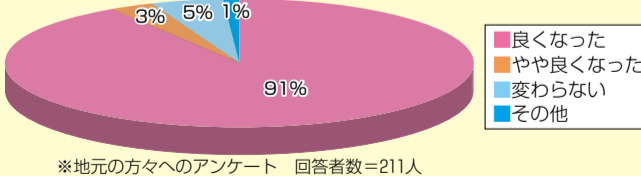
●交通渋滞が解消

多摩3・3・7号線の踏切遮断による最大渋滞長の変化



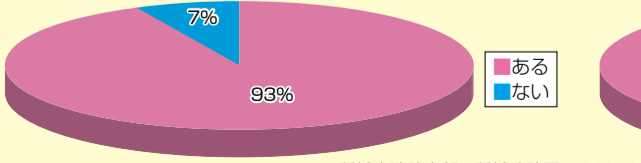
●地元の方々が効果を実感

子どもの通学・高齢者の移動など安心感が高まった



●円滑な消防・救急活動に貢献

高架化前に踏切遮断で通行を妨げられた経験



地元の方々の声

- 人の流れが良くなり歩きやすくなった。
- 踏切が無くなったことで安心感や利便性が良くなった。
- 高齢者が安全に通行できるようになった。

緊急出動時の移動がスムーズになった

